

大里の空から

令和5年2月16日発行

第18号

文責：校長 阿部浩幸

壮大な「プロジェクト」となりました！

その1・【プロジェクト「巻心」】 第5学年 社会科

子どもたちは、「これからの工業生産とわたしたち」の学習で、SDG s 目標⑫「つくる責任・つかう責任」について考えました。そして、「テープの巻心を回収することが地球環境を守るために役立つ」ことを知りました。

ここから、子どもたちの壮大なプロジェクトが始まりました…。

あまり数が多くない「巻心」です。自分たちだけで集めても、ほんの数個です…。

そこで、子どもたちは全校生に呼びかけました。各教室を訪問し、ポスターを作り、放送で呼びかけました。それでも結果は…。

ここで、更に「次の一手」を考え、実行しました。次の一手は「地域の方々・保護者に協力を依頼する」ことでした。

多くの巻心が集まりました。子どもたちの行動が、地球の環境保全につながったのです。



【学校で呼びかけ…】



【地域で呼びかけ…】



【…そして大きな成果】

その2・【プロジェクト「ウクライナのために」】 3・4学年 総合的な学習の時間

学校だよりや学校 HP でもお知らせしていたとおり、中学年児童は学校水田で、米作りを行いました。そして、収穫したお米を村の文化祭で販売しました。

その、売上金の活用方法について、子どもたちは話し合いました。

そして、話し合いの結果「学校水田の看板の材料費」と「ウクライナへの募金」に決まりました。ここで、子どもたちは考えました。

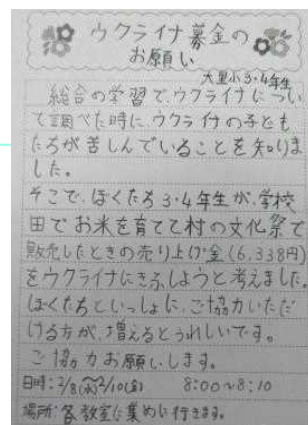
「余ったお金を送るだけでいいの?」「もっと、自分たちにできることはないの?」

ここから壮大なプロジェクトが始まりました。

「僕たちの手で、協力を募ろう!」

想像を超える募金が集まりました。

子どもたちの行動が、「国境を越えた思いやり」を実現させたのです。



【消費者・地域・環境を思いやる米作りを学び、その思いやりが国境を超えました】

※詳しい活動の様子については学校 HP をご覧下さい。

地域・家庭の多大なるご協力があったからこそ、充実した学習活動となりました。子どもたちも地域のすばらしさをあらためて実感することができました。本当にありがとうございました。